

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
発行人 山崎 哲
編集長 仲井 真裕
印刷 大進ラベル印刷(株) 03-3787-3621



大悲に生きる人とあう
願いに生きる人となる

本年もよろしく願っています



浮世写真家 喜千也様 撮影

今月の予定

1月

- | | | |
|--------|-------|------------|
| 1日(土) | 午前7時 | しゅしやうえ 修正会 |
| 9日(日) | 午後2時 | 燈虹塾 |
| 15日(土) | 午後1時半 | 定例聞法会 |
| 16日(日) | 午後3時 | 評議員会新年会 |
| 22日(土) | 午後5時半 | 同行会新年会 |
| 23日(日) | 午前11時 | 婦人会新年会 |



2月

- | | |
|-------|------------|
| 2日(水) | 燈虹塾 |
| 6日(日) | 城東ブロック会聞法会 |
- ※コロナ禍でありますので、予定は変更することがあります。
詳しくは寺務所までお問合せください。

顧問の一言

鶴と亀

真宗の本堂で生まれたと聞く童謡。「かごめかごめ籠の中の鳥はいつつ出やる、夜明けの晩に、鶴と亀が^{すべ}続った。後ろの正面だあれ」。短足の亀と長足の鶴、比較を超えて仏さんの灯をかざす共同作業、それを^{すべ}続ったと表したのか。目隠しした後ろの正面は阿弥陀さん。



1月の山門の言葉



「生きながらえる」のか？ 「生ききる」のか？



名優、二代目中村吉右衛門丈が七十七歳で逝去され、衝撃が走った。「八十歳で弁慶」という夢は絶たれてしまった。晩年は体調不良をおして舞台に立たれていたそうである。華々しい経歴の裏は、葛藤の連続だったと聞く。演じきることが生ききることに他ならなかったのかも知れない。

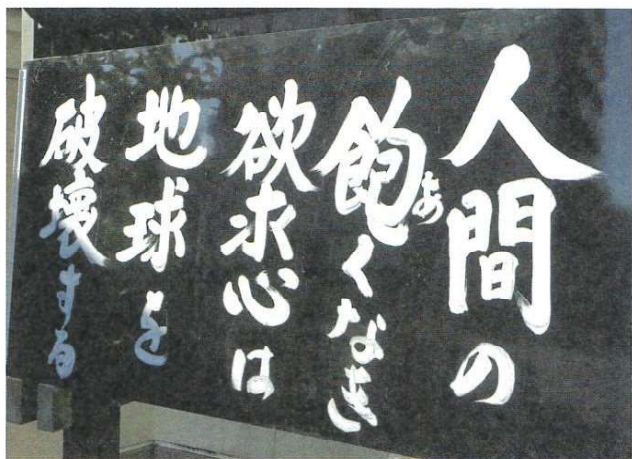
何処まで行っても私たちは道半ばではないだろうか。何時終わるか分からない、このいのちであるからこそ、今日という一日を生ききることが大切であり、問題のほずである。しかしどこかで、例年通りに新年を迎えてはいないだろうか。

高校時代の悪友が十八歳で難病を患い、二十二歳で他界した。死と背中合わせの日々の中、最晩年、彼は自動車免許を取得した。最後まで諦めない気迫に圧倒された、当時の記憶が甦ってくる。

何処までも道半ばであるならば、無念の思いは残るのかもしれない。ただ、彼のその生き様は、遺された私に「生ききるとは？」という宿題となって刻まれた。

新年を迎える今、改めてその宿題が手渡されていたことを噛みしめている。答え無きこの問いを原動力に、今年こそ歩んで行きたい。

(山崎 哲記)



私はバスの運転手をしています、バスの車内や職場は除菌・除菌の毎日です。別にそのことに疑問に思うことはなかったのですが、今回の文章からいろいろ考えるようになりました。でもやっぱりコロナは怖いです。

(40代 男性 バス運転手)



十二月に掲げた山門の言葉を皆さんはどう聞いたのか、お尋ねしました。



みんなは
こう聞いた!!



アクセルとブレーキの問題だと思います。踏めば踏むほど進歩していくと思います。ブレーキを踏んで止まることはできますが、過去には戻れない。人間とはそういう生き物だと思います。欲望がないと生きていけない生物なのでしょう。地球を破壊しても仕方がないと思います。

小石にも泥にもウ○チにも、悉皆仏性と説かれた仏様に合掌することしか、もはや人間にはできないと思います。(70代 草加の野草)

新年挨拶

明けましておめでとうございます。

今年の9月1日で関東大震災から99年が経ち、100回忌に当たります。西徳寺も本堂倒壊という壊滅的な被害でした。多くの犠牲者が出た中で、心のよりどころとして、また「倒れない・燃えない」という願いのもと、鉄筋の本堂を昭和5年に再建。築90年となります。今後は文化財指定を視野に入れ、先達が心血を注いだ本堂を護っていきたいと考えております。

是非、皆様には各法要にご参詣いただき、また普段でもお気軽に本堂でご焼香していただければと存じます。職員一同お待ちしております。

引き続きコロナは油断を許さない状況ではございますが、皆様お大事にお過ごし下さい。本年も宜しく願いたします。

住職 山崎 哲



佛教青年会 最終会 報恩講

西徳寺佛教青年会、解散にあたって

佛教青年会は、昭和59年から約37年間、宗正元先生のご教義のもと、活動してまいりましたが、宗先生のご逝去や会員数の減少により、この度解散する運びとなりました。

長きにわたり、共に学び語り合った会員の皆様、また私どもを支えてくださった大谷顧問をはじめ、西徳寺職員の皆様に感謝申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。皆さまありがとうございました。

令和3年12月14日 西徳寺佛教青年会会長 本間 和夫

12月14日、青年会最後の報恩講をお勤めし、法話を大谷顧問よりいただきました。「バラバラに違って生きる私たちを俱会一処、一つに呼び帰すのが阿弥陀の本願。聞いても聞いても領けないこの教えを、会が終わっても共に課題にしていきたい」とお話いただきました。会員の皆様は、「会が終わっても人の繋がりはなくなるらない」と、明るい雰囲気の中、幕を下ろしました。

長年、当会に携わっていただいた全ての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

(担当 仲井真裕記)





坊さんのツブヤITTER

@マーチン



幼い頃に憧れた野球選手

- ・伊藤智仁 ヤクルト(伝説の高速スライダー)
あのスライダーを投げたくて、フォームも真似して投げていた
- ・池山隆寛 ヤクルト(ブンブン丸)
憧れのバッター 引退試合でもフルスイング
- ・野茂英雄 近鉄 (トルネード投法)
- ・斎藤雅樹 巨人 (ミスター完投)

去年は大谷翔平の大活躍に、力をもらった1年でした。今年はどんな選手が活躍するか楽しみです。

#昭和58年生まれ

#ヤクルトファン

#好き嫌いを超えて憧れた

#膝のケガで野球は引退

#引退試合をできる選手は一握り

#国民的〇〇って大切



えこお志お礼

兵庫県 常福寺 様

埼玉県 田中 達男 様

ご浄財を頂戴いたしまして
ありがとうございます。
ご芳名の掲載をもって
お礼とさせていただきます。



内愚外賢

～賢者の信を聞きて、愚禿が心を顕す～

新たな年を迎えることができました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

私にとって1月1日は、亡き祖母の誕生日でもありました。仏教では法事や報恩講など、誕生日ではなく命日を大切にします。反面キリスト教ではキリストの誕生日クリスマスを祝います。昨年10月号「顧問の一言」に誕生の意味がありましたが、西洋と東洋で、いのちのいただき方が違うのかもしれない。

誕生から命終までを評価する個人の世界から、「今年も新年を賜った」と、誰しもがいのちをいただく世界へ、南無阿弥陀仏を通して呼びかけられています。

本年も、当紙『えこお』を縁として尋ねてまいりたいと思います。

引き続きご意見、ご感想をお待ちしております。

(編集長 仲井 真裕 記)

えこおに対するご意見・ご感想、お待ちしております。

✉ saitokuji@ce.wakwak.com
🌐 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>



ホームページ

ゆうちょ銀行お振り込み口座
00120-0-80670 名義 西徳寺



Facebook

「二代墓地」、各種墓地、受付中。墓石への法名刻みはお問い合わせてください。